

# 骨髄バンクのドナー

## 命ぐすい 耳ぐすい

(953)

骨髄移植(BMT)という治療法についてはよく知られるようになってきました。白血病や悪性リンパ腫などの造血系腫瘍、再生不良性貧血、一部の固形腫瘍等の最後の頼

### 新垣義清

#### まちなと小児クリニック



みの綱となる治療法です。BMTは提供者の骨に注射針を刺して骨の中にある骨髄液を吸引し、患者さんに点滴で入れる方法です。口で言うと簡単なようですが、いろいろな

## 数ミリの採血で登録

難しい条件があります。

BMTを成功させるには骨髄液を提供する人(ドナー)と患者さんのHLAを合わせる必要があります。HLAというのは白血球の型で、これは非常に多くの型があり人種差もあります。遺伝的に決まるため、きょうだい間では25%の一致率がありますが、少子化の現在ではきょうだいからドナーを探すのは難しくなっています。一般の人では数百人、数万人に1人しかHLAは一致しません。きょうだい、血縁家族にHLAの合う人がいない場合のため、1992年に骨髄移植推進財団が設立され日本骨髄バンク(以下バンク)はできました。

ドナーになることを希望する人はHLA検査のために2〜3ミリの血液を採り、用紙に住所、氏名、連絡先等を記入し提出すれば登録完了です。ちなみにドナー登録は18歳から55歳未満の年齢制限があります。ドナーのHLAはバンクに登録されます。一方で移植を希望する患者さんは主治医を通して、ドナーの検索をバンクに依頼します。HLAの合ったドナーが見つかった時からバンクを介してのBMTがスタートします。

患者さんとHLAが一致した時、バンクのコーディネーターから連絡が来ます。そして意思確認のための面接が行われ、バンクの委嘱した調整

医師から実際の移植のやり方や合併症の話、全身麻酔の問題点などの話があります。骨髄液の採取は手術室で全身麻酔をかけて行われます。骨髄液の提供の意思確認後、健康状態のチェックのための採血がされます。ドナーの健康状態に問題がなければ最終同意の面談になります。この席には本人の家族、第三者の立会人の同席も求められます。話し合いの結果最終同意した後は、原則として同意の撤回は認められません。それまでに家族とも十分に話をし理解してもらう必要があります。約4日間の入院が必要になりますが、休業補償はありません。

その後BMTの日程や骨髄液採取病院が決定し、採取病院での健康診断があり、移植の日を待つこととなります。(骨髄移植推進財団調整医師)